



2022 JR 総連春闘勝利！ シリーズ⑧

赤字でも支払う財力はある！ 社員の苦労に応える賃上げを！

2022春闘 第3回団体交渉

本部は本日、2022年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れについての第3回団体交渉を開催しました。今回は、賃金、夏季手当、改訂新人事・賃金制度、諸手当、通勤に関する要求について議論しました。

本部は「ベア6,000円、定期昇給1乗数1,500円・4乗数完全実施で6,000円及び逓減撤廃、夏季手当3.5ヶ月は、社員の切実な要求である。3期連続の期末手当大幅削減は生活に影響が出ている。それに輪をかけて物価が大幅に上昇している。役員報酬はたかが1割の自主返納で、JR他社に比べても低い。リニア建設を進めていることは、財力に余裕がある。収入も改善している。これは社員の努力によるものだ」と主張しました。

しかし、会社は「収入が改善されたとはいえ、赤字であることには変わらない。低減撤廃については、苦労した者が報われる制度を変える考えはない」と、賃金を抑え込むための言い訳に終始しました。また、安定的支給ベースの解釈についても追及しましたが、対立でした。

諸手当について、本部は「業務内容や労働密度からすれば手当の金額は見合っていない。祝日手当廃止によって収入が減り、復活は切実な要求だ。100分のいくつなら出せるのか」と主張しました。しかし、会社は「手当は整合性があり適正な金額だ。祝日手当は他の手当に振り分けた。復活はさせない」と、社員の苦労を足蹴にする回答に終始しました。

更に本部は、60～65歳までの退職ポイント加算の要求についても、会社は「制度を変える気はない」と、全く聞く耳を持たず、対立で終わりました。

※詳細は『業務速報』No.1293を参照して下さい。

第4回団体交渉は3月7日（月）に開催します。